

奥村知世（平成二十九年十月号）

ハキハキと新入社員の滑舌の切り花のような鮮度と思う

カレンダー夏にかわってザブザブと会議室でもペンギン泳ぐ

実験はすべて届出制となる育休明けは新人として

毒キノコのごと赤々と盛り上がりどの装置にも非常停止ボタン

社内報 監査役へと退いた元社長の名のフォント小さく



●作者の言葉

石川不二子さんの短歌にあこがれています。仕事、家族、自然をテーマにした力強く優しい歌。そんな短歌を詠みた

いと思っています。

・わが子にはかつて言はざる
優しさに仔牛の行儀ほめて
やりぬし

（『鳥池』）

そんな思いを込めた歌を

年間賞に選んでいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。良いことも悪いことも詠みながら、最後には温かい気持ちが残るような歌を作ってみたいです。

●選者の言葉

幾人か候補があったが、この一年間で三度、特選にえらんだ奥村知世さんに年間選者賞を贈ることにした。昨年十月号、今年の三月号、四月号が特選で、十月号の作を受賞作とした。職場を歌った作である。

・ハキハキと新入社員の滑舌の切り花のよ
うな鮮度と思う

・毒キノコのごと赤々と盛り上がりどの装置にも非常停止ボタン

・社内報 監査役へと退いた元社長の名のフォント小さく

一首目と二首目は比喩が生きている。とくに二首目は深読みのできる職場の歌である。三首目は社内の現実を歌い得ている。奥村さんは今年の「歌壇賞」でやはり職場を鋭く歌い次席だった実力派歌人である。